

# 5年生 災害現場で防災学習

## 完成した治山ダムに学ぶ

### 一つの沢に多くもの治山ダム 雨水の流れがゆっくりに

#### 総合的な学習の時間

八木小学校  
小松野協  
林野自治

10月15日(金)、八木小学校(校長 土肥美由紀)は、5年生(3クラス、103人)の総合的な学習の時間で令和元年の西日本豪雨で甚大な土砂災害を起こした曾場ヶ城山北斜面で行われている治山事業の現場で、林野庁山地災害復旧対策室(室長 澤井孝仁)の方から治山ダムができるまでの過程と、治山ダムが土石流を防ぐ仕組みを学ぶ防災教室を開いた。



多段式に作られる治山ダム・下流に古いダムが見える

教室が開かれた現場は、令和元年溝追交差点を襲った土石流の主因となった溪流の下流部に昨年度完成した治山ダム(林野庁・災害復旧事業)。また、この溪流は平成11年にも土石流を起こし、広島県の治山激甚災害対策(平成12年)により最下流部に治山ダムが1基設けられていた。



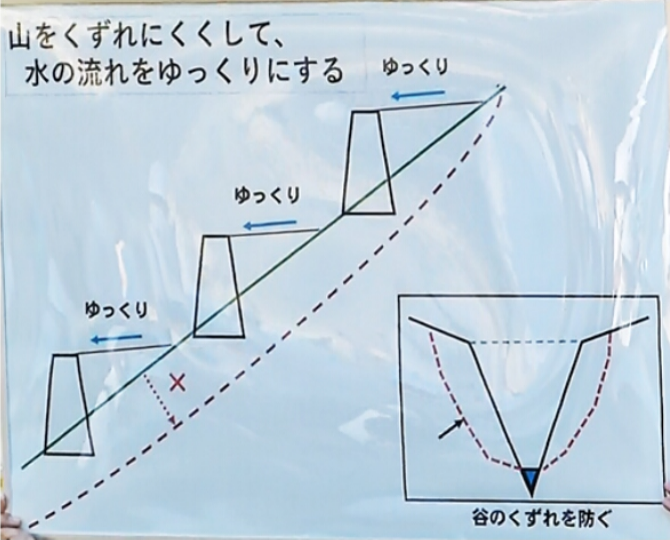
多くの質問を投げかける小学生(左)

実際に現場を歩いて調査した結果に基づき、治山ダム(深間工)や山の緑化等(山腹工)について具体的な設置計画をたてて工事にはいります。このダムは高さ8.5m幅33mの大きさ

で生コン車約200台分のコンクリートできています」と工事の過程について写真を用いて分かり易く説明。また「このダムの上流の急な場所にも更に4基のダムを設置し降った

雨の流れを緩やかにするとともに、頂上付近の崩れた場所を緑化することで土石流の発生を抑えます」と土石流を防ぐ仕組みについても分かりやすく説明した。

説明を受け、児童らは「ダムは壊れないか、ダムの形はどうして決めたか、ダムで流れはどのくらい遅くなるか、今ダムにどのくらい土砂が溜まっているか」など率直な質問を投げかけ、澤井室長の丁寧な説明に納得したようだった。



なお、次回の教室(第4回目)10月28日)では、災害時に避難所や避難場所となる地域センターや地域の防災倉庫を訪れ、どのようなものが防災のために備えられているか学習している。

# あいさつ声掛けからはじまる つながりづくり

## 身近な支え合い活動は「自治会域」で

### 地域の福祉力を高めよう

## 出合い 気づき 話し合い

### 令和3年度福祉講演会

自治協  
福祉委員会

10月24日(日) 自治協福祉委員会(委員長 信国武登)は、市社会福祉協議会の協力を得て井岡仁志氏(東広島市地域共生推進アドバイザー)を招き、八本松地域センターで令和3年度福祉講演会を開催した。



地域の福祉力を高めようと呼びかける井岡氏

特に本年度は、地域絵ぐるみで「あいさつ・声掛け・見守り運動」を重点活動としているところから、この運動の理解を深めるために開かれたもの。福祉に関心を持つ地域の方約50名が参加し、熱心に聴講した。

井岡氏は、冒頭で八本松地域が進められている「あいさつ・声掛け・見守り運動」が地域共生社会を実現する運動として高く評価し、地域の福祉活動のあり方について分かりやすく解説した。

まず、地域福祉活動の区分について、「身近な支え合い活動は自治会や班等のエリアで、全体の活動の方向性の合意形成や支え合い活動の補完は自治協等のエリアで行われる。そして、それらのエリアが連携し活動する必要がある」と地域の福祉活動の役割分

担について述べた。また、「身近な支え合い活動は、サロンや見守り等で要支援者と『出合い』、そして関わる

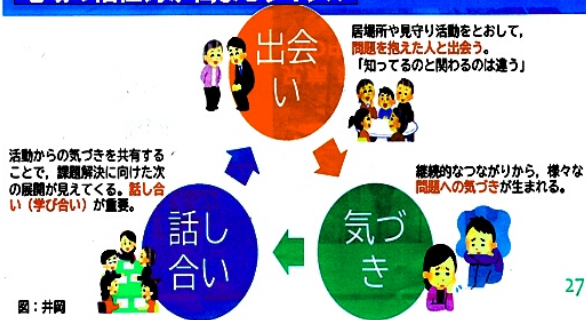
ことで『気づき』、気づいたことを見守り会議で専門職を交え『話し合い』を行うことで必要な活動が生み出され、地域の福祉力を高めることができる」と実際に活動されている動画を交え説明した。

最後に、八本松でも、こうした取り組みで東広島市の先進的な活動を続けていただきたい」と述べ講演会を終了した。

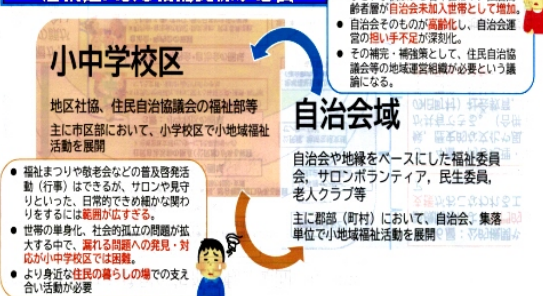
出席者のアンケート調査では、43名中41名の方が満

足したとの回答で、多くのことを学ぶことができて良かったとの感想が多数寄せられていた。

### 地域の福祉力が高まるサイクル



### 自治会域と小学校区域の基礎組織の2層構造による相補関係が必要



この地区は、近年新たな住民の方が増加してきている。そのため、子どもから高齢者の方までの「お楽しみづくり」に熱心で、中央地区社協もその取り組み



八本松中央地区社会福祉協議会の皆さん

八本松中央地区社会福祉協議会(会長 山口清人 会員21人)は、10月28日(木) 広島市南区民文化センターで開催された令和3年度広島県社会福祉大会において、広島県社会福祉協議会長から「社会福祉の増進」に寄与した」として表彰された。

### 広島県社会福祉協議会長賞 八本松中央地区社協が受賞

#### 「自治会域で進めた福祉活動評価」

を支えてきた。また、最近では高齢者等を対象にした「お助け隊」の活動について、当社協をはじめ自治会や自主防災会、見守りサポーター、民生児童委員が連動した模範的な自治会域の福祉活動に取り組んでいる。

今後、駅前区画整備に伴い、住民の方の移動や増加が予想され、住民の方の「つながりづくり」や「お悩み相談・解決」のためにも、こうした取組みに一層の期待がよせられている。